

倉敷市災害に強い地域をつくる検討会 (R1.9~R3.3)

- 災害時の住民避難について、住民への情報提供や周知のあり方や、住民による自主的な避難を促進するための検討を行い、地域における防災力の強化を図るため、検討会を設置（片田敏孝氏、防災教育や避難対策の有識者、住民代表などの委員8人）

【中央防災会議】

平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ

「平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について」(報告)

現 状

- ・激甚な災害への行政主導のハード対策・ソフト対策に限界
→住民主体の防災対策に転換していく必要

目指すべき方向

- 【住民】：「自らの命は自らが守る」意識を持つ
- 【行政】：住民が適切な避難行動をとれるよう全力で支援

【倉敷市災害に強い地域をつくる検討会】

地域と行政が今後目指すべき方針及び
具体的な行動計画（令和3年3月提言）

【方針1】住民一人ひとりの避難行動の実行
「自らの命は自らが守る」意識の徹底
防災情報の収集や活用

【方針2】地区防災計画の策定推進
地域が自主的に取り組む防災体制づくり
防災活動を通じた地域コミュニティの活性化

【方針3】防災教育の推進
地域と学校の連携による防災教育の環境づくり

【方針4】避難行動要支援者の避難支援
地域による避難行動要支援者への避難支援
健康長寿と支え合いの地域づくりの推進

【方針5】災害対応型まちづくりの推進
災害リスクを軽減する防災まちづくりの推進

倉敷防災ポータルによる情報発信

～【方針1】住民一人ひとりの避難行動の実行～



- リアルタイムの防災情報を集約した専用サイトを作成→**早期適切な避難行動へ**

倉敷防災ポータル

Kurashiki Disaster Prevention Portal

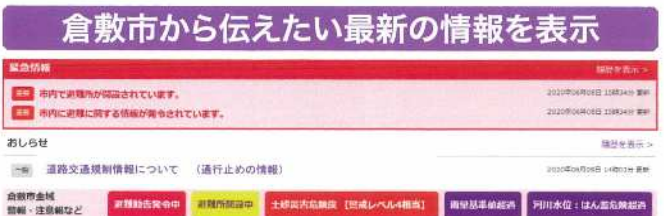
「**現在**」の防災情報を確認できます。

令和2年
8月1日
運用開始

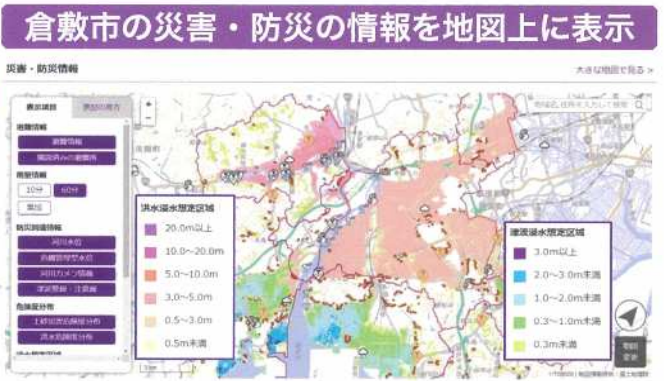


倉敷防災ポータルで**確認**できること

緊急情報
お知らせ
気象情報



浸水想定
雨量・水位
避難情報



雨量・水位 観測数値でアイコンが変化。詳細な数値も確認可能。

10分雨量	観測雨量	河川水位	河川水位
<ul style="list-style-type: none"> 30mm以上 20mm以上 10mm以上 5mm以上 1mm以上 	<ul style="list-style-type: none"> 10分雨量 0mm 60分雨量 0mm 累計雨量 0mm 	<ul style="list-style-type: none"> はん盆危険超過 避難開始超過 はん盆注意超過 水防団待機超過 	<ul style="list-style-type: none"> 番津 水位 2.75 m 水防団待機水位 7.4 m はん盆注意水位 8.7 m 避難開始水位 11.6 m はん盆危険水位 12 m



避難所 開設状況や詳細情報の確認が可能。

避難所・避難場所	避難場所・避難所
<ul style="list-style-type: none"> 避難所(半開設) 避難場所(半開設) 避難所(開設) 避難場所(開設) 	<ul style="list-style-type: none"> 倉敷市小学校 住所 倉敷市中央1丁目21-1 最大収容人数 220人 対象災害 土砂 地震 津波 高潮 避難様式 Google Mapsで表示



アクセス方法

ブックマークやお気に入りに登録をお願いします。

URL <https://bousai-portal.city.kurashiki.okayama.jp/>

倉敷防災ポータル

検索



お問い合わせ先 倉敷市 防災危機管理室 危機管理課 TEL 426-3645 防災推進課 TEL 426-3131

※災害時には、浸水などの状況を確認してご利用ください。

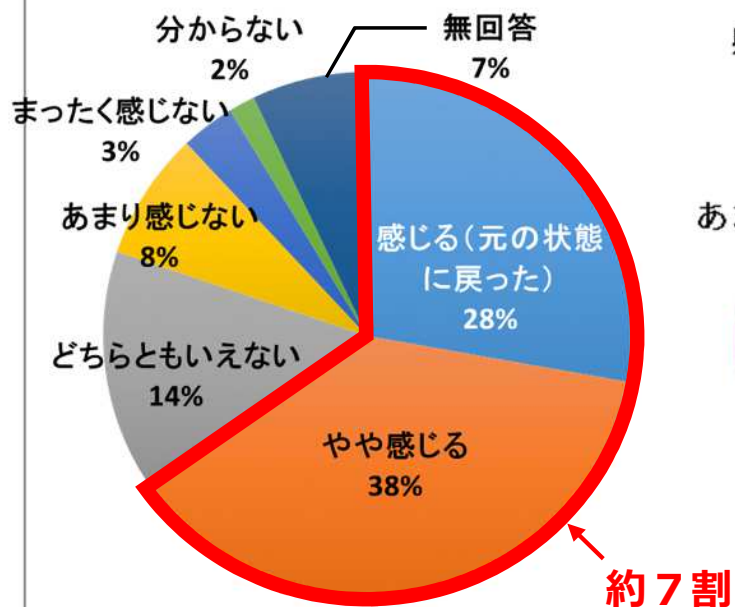


○ 治水対策や公共施設の復旧、住まいの確保などの「復旧期」の取組が進み、生活環境の本格復旧を進める「再生期」の段階になっている

復興状況に関する住民アンケート結果（令和3年12月実施）

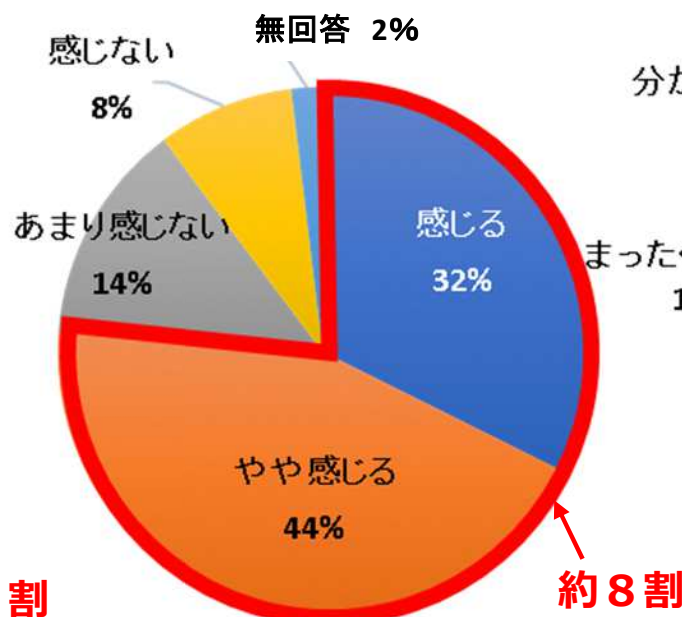
【生活全体】

「災害前の元の状態に戻ってきている」と感じている割合は…約7割



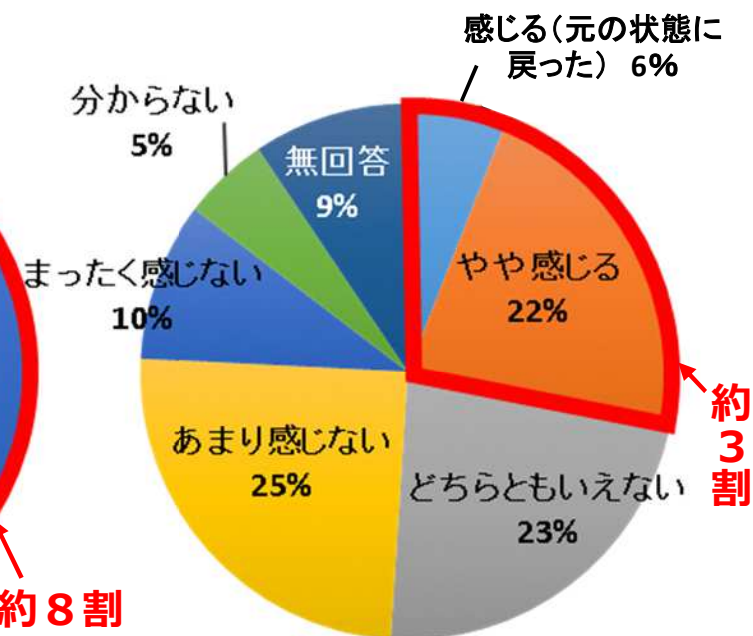
【災害への備え】

「災害直後と比べて記憶が薄れているように感じる」割合は…約8割



【まちのにぎわい】

「災害前の元の状態に戻ってきている」と感じている割合は…約3割



地区防災計画の策定に向けた地域での取り組み

～【方針2】地区防災計画の策定推進～

- 地域が自主的に取り組む防災体制の構築と活動に継続性・実効性を持たせる工夫
- 地域全体で連携し、防災活動を通じた地域コミュニティの活性化
- 自主防災組織を中心に計画作成を推進（自主防災が率：79.04% R5.3.31時点）

ワークショップ



運営ミーティングの開催



防災訓練（避難所開設）



防災まち歩き



→

防災マップ作成会の開催



→

防災マップ完成・配布



- 倉敷市の地域性を反映することや、児童生徒が災害に対して「わがこと意識」を高め、「自助」「共助」の姿勢をもつことを重点とした防災教育を推進
- 地域と学校が連携した防災教育の実施

【主な取組】

- 市立小学校（61校）の3年生、5年生に新たに3時間以上の防災学習を追加し、全ての学校で共通した内容を指導
- 市立中学校（26校）の2年生においても新たに3時間以上の防災学習を実施
- 地域の自主防災組織や防災士を講師に招いた防災学習や避難訓練の実施

⇒ **生徒が災害を自分事として捉えることができ、家族、教職員を含めた防災意識向上につながった。**



防災安全マップ作成のためのフィールドワーク資料



小学校社会科副読本



マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を活用した学習



「自助」だけでなく「共助」の姿勢をもつための中学校でのモデル授業

「逃げ遅れゼロ」に向けた、要配慮者の避難支援

～【方針4】避難行動要支援者の避難支援～

- 要配慮者本人や家族のみならず、近隣住民や民生委員、福祉事業所等、地域みんなで要配慮者の避難を考える「地域連携型要配慮者マイ・タイムライン」の作成を支援
- 要配慮者マイ・タイムラインの作成ヒント集の配布、作成支援動画の公開（YouTubeとDVD）
- 要配慮者マイ・タイムラインの啓発漫画を倉敷市内の公立小・中学生全員に配布

作成支援

シートを埋めることが目的ではなく、
顔が見える関係を築くことが大事！



作成支援動画

『岡谷さんの
マイ・タイムライン』

啓発漫画

『僕に出来ること』

作成ヒント集



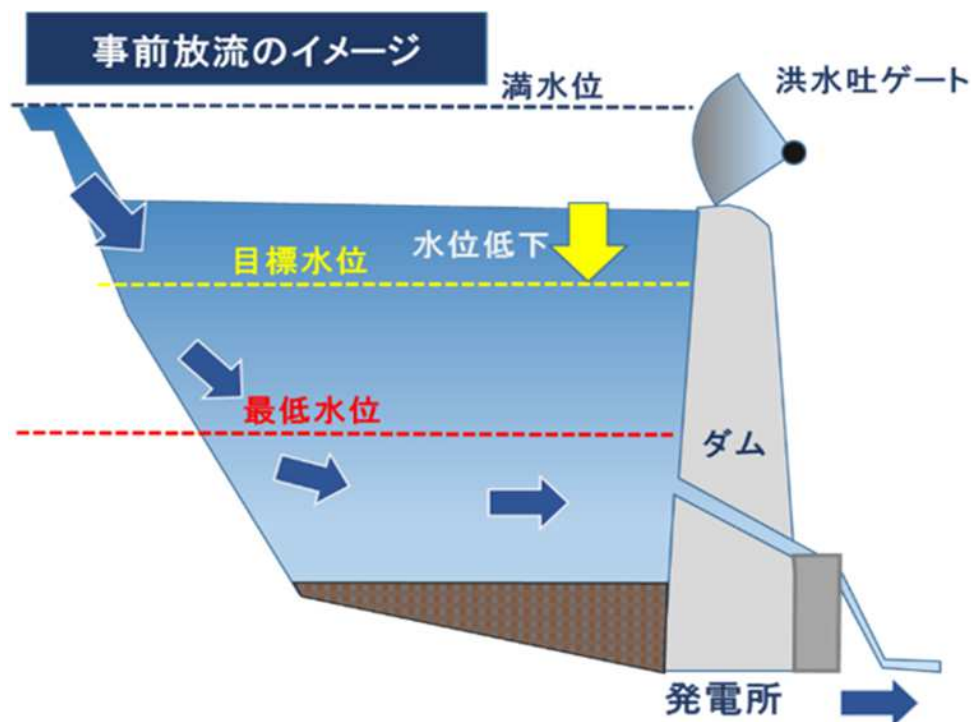
ダムの事前放流等について

～【方針5】災害対応型まちづくりの推進～

- 高梁川水系治水協定(令和2年5月29日締結)に基づき、20ダムで事前放流等に取り組み、河川における水害の被害軽減を図っている

【経緯】

- ・平成30年7月豪雨を契機として、ダムの洪水調節機能の強化が求められてきた
- ・市では、「高梁川本川沿川4市長との意見交換会」や「高梁川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」などを通じて、事前放流等を実施する態勢の構築を目指してきた
- ・令和5年5月現在、利水ダムも含め、県下20ダムで事前放流等を実施している



事前放流の実施内容

- ・予測雨量と予測最大流入量に応じて事前放流を実施
- ・事前に低い水位に下げておくことで貯水容量を確保

事前放流の実施による注意喚起

- ・広報車により、水位の上昇に関する巡回警告を実施

【事前放流の実績】

・令和元年度	3回	・令和2年度	2回
・令和3年度	3回	・令和4年度	2回

農業用水路の事前排水と田んぼダムによる貯水容量の確保 ～【方針5】災害対応型まちづくりの推進～

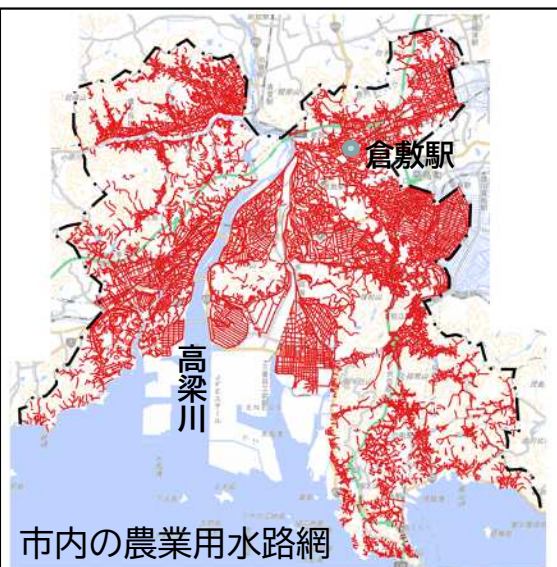
- 平成20年代から、大雨が予想される場合に、事前に高梁川からの取水を中止するとともに、農業用水路の樋門を開放し、用水路の水位を低下させ貯水容量を確保
- 田んぼダムの実証試験を実施し、平成30年西日本豪雨と同程度の雨が降った場合、水田からのピーク時の排水量を5～6割程度抑制する効果を確認し、翌年度から普及・啓発、取組を実施

農業用水路の事前排水の取組

- 平成20年代から農業用水路の水位調整を実施し、平成23年台風12号の被害を契機に取組を強化



- 市内の農業用水路（平地部総延長約1.5km）の水位を約1.0m低下させた場合、約300万m³の貯水容量を確保



事前排水後



事前排水前



田んぼダムの取組

- ＜耕作者の堰板・のぼり旗管理業務＞ 1,000円/排水柵
業務内容 ・農地や農作物への影響確認及び報告
・のぼり旗設置による取組のPR
・堰板の常時設置



田んぼダム無し

- ＜市独自の支援＞

- ・排水柵取替や畦畔補強を市で支援
- ・田んぼダム用堰板を無償で提供

- ＜普及啓発＞

- ・のぼり旗設置
- ・地元住民を対象とした説明会の実施



田んぼダム有り

支援・普及の結果、
R5年度には、取組農地は約37haになる予定

貯水効果
18,500t (25mプール 約31個分)
※現在より5cm高く貯水すると仮定

みんなで力を合わせて取り組む浸水対策の推進

～【方針5】災害対応型まちづくりの推進～

- 倉敷市で生活している全てのひとや、地域を担う企業が、各々の役割を果たし、行政と力を合わせて浸水対策を推進

みんなで力を合わせるために、

- 「倉敷市総合浸水対策の推進に関する条例」 令和4年4月1日施行
- 「倉敷市総合浸水対策の推進に関する条例施行規則」 令和4年4月1日施行

みんなの役割を知ってもらうために、

- 「倉敷市総合浸水対策基本計画」を策定

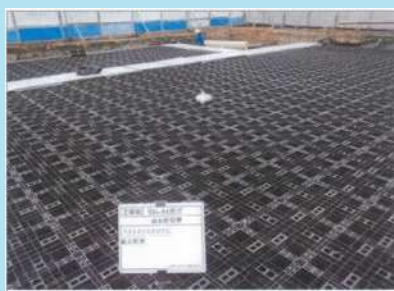
開発行為等における雨水排水計画の協議

土地又は敷地の面積2,000平方メートル以上の開発行為等を行う民間事業者に対して雨水排水計画の協議を義務化し、雨水流出抑制を図る。

■ 令和4年度協議実績 (令和4年10月1日～令和5年3月31日)

- 雨水排水協議完了件数 10件
- 雨水流出抑制量 約1,900立方メートル

プラスチック貯留槽の例



コンクリート製貯留槽の例



～これまでの取組～

清掃活動



各家庭での雨水タンク設置補助



雨水ポンプ場整備



民有地緑化助成制度



市街地再開発事業の整備に合わせて取り組む洪水浸水対策の推進 ～【方針5】災害対応型まちづくりの推進～

- 近年のゲリラ豪雨などによる雨水浸水被害を防ぐため、市街地再開発事業の整備に合わせて、街区内に官民一体となって、透水性ブロック舗装、雨水浸透ます等を整備
- さらに、洪水浸水想定地区に位置するため、市街地再開発事業で整備される市営駐車場等を、氾濫時における緊急時の避難場所として利用



第8回ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）



二之湯国土強靱化担当大臣と倉敷市長

＜グランプリ受賞（令和4年4月）＞

「地域防災の強化と倉敷駅前から美観地区を紡ぐ新たな賑わいと交流の新街区拠点整備事業」

防災活動における拠点施設の整備

～【方針5】災害対応型まちづくりの推進～

- 平常時と災害時の両面で活用でき、地域の発展にもつなげる復興防災公園（仮称）の整備
- 防災学習や防災訓練など、防災教育の場としての利用、展示コーナーを使った被災の教訓の継承など、防災意識の向上

公園面積：約4.5ha
約2.8ha（公園部）
約1.7ha（河川敷）

←小田川

防災備蓄倉庫を備えた建屋



←中野川

建屋での防災学習のイメージ



※完成イメージのため、今後の工事により、変更することがあります。